

平成 19 年度 第 4 回 海洋開発委員会 幹事会 議事録 (案)

日 時 : 2007 年 12 月 20 日 (水) 14:30~17:30

場 所 : 会議室「ナチュラック」

参加者 : 高橋委員長, 関本幹事長, 大塚, 五明, 柵頼, 矢内の各委員兼幹事, 伊藤, 武田, 森屋の各幹事

資料 1 平成 19 年江戸海洋開発委員会 幹事会 議事録 (案)

資料 2-1 特別セッション案について (海洋エネルギーの現状と課題)

資料 2-2 海洋開発シンポジウム特別セッションの持ち方 (沖合大水深域漁場造成に関する技術開発)

資料 3-1 討議プロセスの公開

資料 3-2 第 33 回海洋開発シンポジウム (海洋開発論文集 Vol.24) のスケジュール案

資料 4 2009 年シンポジウム会場について

資料 5-1 海洋基本計画の策定に関する提言

資料 5-2 内閣府総合海洋政策本部事務局訪問議事

資料 5-3 海洋基本法と私たち 講演録

資料 6 平成 19 年度 第二回 海洋開発委員会 議事次第

資料 7 平成 20 年度「重点研究課題 (研究助成金)」募集について (ご案内)

資料 8 第 20 回 海洋工学シンポジウム

議事内容

1. 委員長挨拶

今回は, 海洋基本計画への提言について内閣府でのヒアリングの報告をする. また, シンポジウムについて活発な議論を期待する.

2. 前回議事録の確認

前回議事録については, あとで見ていただき修正点があれば幹事長まで連絡する.

3. 第 33 回 海洋開発シンポジウムの準備状況

(1) 特別セッション (海洋エネルギーの現状と課題)

九大経塚先生にオーガナイザーをお願いし, ①潮流発電, ②波力関係, ③温度差発電, ④洋上風力について話題提供していただき, 現状と課題, 将来展望について議論する旨説明があった. エネルギー政策の大きな流れの中で, 先行事例としての新エネルギーの問題を明らかにするというスタンスで, 上記 4 つの発電技術について展開することとなった. これに関する議論は以下の通り.

・石油が高騰すると海洋エネルギーはブームになるが, その一步先に進めないのがこ

れまでであった。政策的な問題、電気機器が高価なこと、蓄電技術の問題、エネルギーポテンシャルが低いことなどが課題である。

- ・過去の経験に学んで次につなげていくことが大切である。
- ・海洋基本法などの政策も含めた大きな流れの中で位置づける必要がある。
- ・先行技術として新エネルギーの持つ課題を明確にする。

(2) 特別セッション（沖合大水深域漁場造成に関する技術開発）

今年度も明田さんにオーガナイザーをお願いし、①沖合大水深域漁場造成の計画設計施工積算上の考え方、②保護礁の機能と効果、③マウンド礁の機能と効果、④マウンド礁による二酸化炭素吸収のメカニズムとし、①と③をまとめた、3つの報告を各40分ずつで考える旨報告があった。議論の結果、30程度は議論の時間を確保すること、セッションの終わりにはオーガナイザーサマリーが必要であること、効果に対しては定量的な評価を含めることとなった。議論については以下に概要を示す。

- ・IMOでは、漁礁は廃棄物の海洋投棄との批判があり、彙集効果は生産増とは認められないため、それ以外の効果について明確にする必要がある。
- ・色々な切り口でものを示すことが重要である。
- ・サマリーを先に書いてみる必要があると思う。

(3) 討論プロセスの公開

論文集に記載している、「論文審査要領」を「論文審査及び発表・討議要領」とし、4.として発表および討議方法を追記する。ホームページも海洋開発論文集に掲載された論文はシンポジウムで発表し討議する旨加えることとした。

(4) 海洋開発論文集のスケジュール

前回、論文WGより提示されたスケジュールとすることとなった。

(5) キーワードの見直し

キーワードについて分析を行った結果、現状のキーワードを変更しないこととした。また、プログラムの自動作成については、試みを行う。

(6) 座長企画型セッション

座長企画型セッションについては、判定基準の整備のための議論に時間が必要なため、今年度は公募しない。今年度は試行という位置づけで座長を幹事会にて指名して実施する。座長候補として、大塚委員、五明委員をお願いし、準備が整えば実施することとする。

4. 研究小委員会の活動報告

(1) アセットマネジメント小委員会

11月12日に小委員会開催、3ヶ月に1回程度委員会を開催する予定（全10回）、活動内容を今年度中に決め、その後委員の追加・公募について検討する。H20年度の科研費と土木学会重点研究課題に応募する。

(2) 外海水導入小委員会

12月19日に小委員会開催，年度内の報告書作成に向けて検討を実施中で，2月中～下に次回開催予定．次年度については無理して継続する必要はない．

(3) 順応的管理

12月7，8日にパネル展を共催，両日ともパネル展約200名が参加した．

5. 第34回シンポジウムの開催場所について

前回の幹事会で，次回の候補地として松山を第一候補に挙げたが，横浜港が2009年で開港150周年を向かえ，横浜市が関連イベントとして協力していただけること横浜市保有の施設は利用料が非常に安いことから，開催地を横浜にし，松山を第35回の第一候補地にすることとなった．横浜では海の移動教室の代わりに市民向けのシンポジウムを企画すること，海外からの講師の招聘などを今後検討していく．

開催日は，第一案：2009年7/2（木）～3（金），4（土）（イベント），第二案：2009年6/28（日）（イベント），6/29（月）～6/30（火）とする．

6. 海洋基本計画について

海洋基本計画の提言を海岸工学委員会と共同で作成し，11月22日の理事会で，土木学会からの提言として正式に承認された．12月4日に内閣府総合海洋政策本部事務局を訪問し，土木学会の提言を提出し，ヒアリングを受けた．内閣府総合海洋政策本部事務局から，継続的な取組みを要望されたこともあり，海洋基本計画は5年程度で見直すことから，幹事会を事務局とした，海洋基本法フォローアップ研究小委員会を立ち上げる．メンバーは，委員の方を中心に人選していく．内容としては，プロジェクトを中心に大きな視点でかつ具体性を持たせたものとする．

4月に開催した「海洋基本法と私たちの講演録」はホームページにアップする．

7. 平成19年度 第二回 海洋開発委員会の内容について

議事次第（案）に，委員会評価を加えたものとする．開催日は，8日を候補日とし，欠席された幹事に諮る．当日は，9:00～論文WG，12:00～14:00 幹事会，14:30～17:00を委員会とする．

8. 特別重点研究について

委員会からは，アセット小委員会で応募するが，他に応募することも可能である．応募する場合，締切が2月22日となっているので注意して欲しい．

9. その他

海洋工学シンポジウム，セッション割が決まった．土木学会のオーガナイズドセッションは津波防災が初日の午前から，閉鎖性海域が初日午後，順応的管理が2日目午前に割り当てられた．基調講演は内閣府から1名，経団連伊藤氏を予定．一般講演が少なくなっているが，船舶海洋工学会のオーガナイズドセッションに取り込まれたためである．開催のPRをして欲しい．参加費は，7,000円．

次回幹事会は2月8日12:00～14:00，土木学会 E，F 会議室にて開催予定．